

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：平成 19 ~22 年度

課題番号：19592577

研究課題名 (和文) 認知能力を見るアセスメントツールについての研究

研究課題名 (英文)

Instrument Development in measuring the abilities of interpretive abilities of those who are afflicted with Alzheimer's disease or other related cognitive impairments.

研究代表者

(山下美根子)

研究代表者の専門分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：知覚・認知障害、認知症、統合失調症、精神障害、アセスメントツール

1. 研究計画の概要

認知症をもつ高齢者を対象に残存能力を測定する尺度開発を行ってきた。開発した尺度の信頼性・妥当性について検証出来た。その成果を基に、目下、知覚・認知障害を持つ精神障害者を対象に彼らの残存能力について研究を進めている。

2. 研究の進捗状況

平成 19 年度は、精神看護学臨地実習において、学生が受けもった患者の認知能力を確認する必要がある。患者への「教育心理的支援を提供する際、受け持ち患者の理解度について確認しながら援助を展開する。しかし、そのようなアセスメントツールは、精神科看護には無い。そこで、山下は学生が既存のアセスメントツールと併用して活用出来る簡易版を作成して臨地実習における有用性を見た。その結果、本簡易版は、学生が自分の受け持ち患者へケアを提供しながら、普通の会話の中に織り込んで自然体で活用出来ることから有用性があることが分かった。本簡易版を使った結果、統合失調症を持った患者が、うつ病や薬物依存症を持った患者に比べて、より支援が必要であることが判明した。

平成 20 年度は、地域の一般病棟に入院している高齢者の認知能力について調査した。山下が作成した簡易版認知能力測定尺度を用いた。対象 64 人の平均年齢は 75 ± 15.1 歳 (29-97 歳) で、男性 46.8%(n=30)と女性 53.2%(n=34)であった。対象平均年齢 76 歳を境界線として 2 群に分け両群のスコア平均値を見ると 2 群間に有意差がみられた。この結果より、70 代後半から認知能力が減少するた

め、一般病棟の入院患者で 70 歳代後半の患者に支援を提供する際、特別な配慮や工夫が必要であることが示唆された。

平成 21 年度は、地域で社会復帰を目指す精神障害者の残存能力について調査を行った。山下が作成した 2 つの測定尺度を用いた。文献では、「生活のしづらさ」が精神障害者の最も困難な課題であると指摘されている。本調査では、対象の日常生活上において、どの分野に支援が最も必要であるかについて見た。その結果、生活技術の取得 (ADL) は集団で一緒に学ぶことから取得されていた。一方、生活の質 (QOL) については ADL スコアと比べてスコアが低かった。これは質問内容から対象の自己効力感や自尊感情の低さと関連していると思われた。よって、対象の SST や他の社会復帰プログラムにおいては、彼らの自己効力感を向上させるようなプログラムやサービスの提供が重要である。

3. 現在までの達成度

認知症をもつ高齢者の残存能力を測定する尺度開発の研究成果は、山下が英語で論文を作成して *International Nursing Review*, 54(2), 2007, 179-182 にて誌上発表した。同論文を日本の読者のため、山下が和訳して *インターナショナルナーシングレビュー* (日本看護協会より出版) で誌上発表した。

さらに、認知症をもつ家族介護者を対象とした研究についても、山下が英語で論文作成して *洋専門誌 (Applied Nursing Research, 2008, 227-231)* にて誌上発表した。

また、認知症高齢者の終末期ケアについて看護臨床家を対象とした専門誌 (臨床看護、

36, 2010, 842-845) に発表した。

4. 今後の研究の推進方策

高齢者で占める割合がますます急増する中、認知症高齢者の絶対数も増加するため、認知症高齢者のホスピスケアの在り方について今後検討したい。精神障害者においても高齢化が進み、認知症対象と共に深刻な社会問題として提起される。このように知覚・認知障害をもつ対象とその家族について、今後学術的視点から貢献し、その成果を臨床現場へ還元したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件) その内 2 件は洋専門誌上にて発表

[学会発表] (計 8 件) そのうち 4 件は海外での口頭およびポスター発表

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]